

釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会
第19回湿原学習のための学校支援ワーキンググループ議事要旨

■日時：2024年8月20日（火）14:00～16:00

■場所：釧路地方合同庁舎3階 第3会議室

■出席者：（敬称略・順不同）

<専門家>

- ・高橋 忠一（再生普及小委員会委員長）

<学校教員>

- ・釧路市立中央小学校 前田 進太郎
- ・釧路市立新陽小学校 柴田 康吉
- ・釧路町立富原小学校 續 智仁
- ・標茶町立標茶小学校 湯浅 憲二

<学校教育行政機関等>

- ・北海道教育庁釧路教育局 教育支援課 社会教育指導班 主査 角田 淳
- ・釧路町教育委員会 教育部 指導主事室 室長 坪井 条太（オンライン参加）
- ・標茶町教育委員会 指導室 指導室長 富樫 慎也（オンライン参加）
- ・弟子屈町教育委員会 指導室 指導室長 武田 進一
- ・鶴居村教育委員会 タンチョウ自然専門員 音成 邦仁（オンライン参加）
- ・釧路湿原国立公園連絡協議会 事務局次長 元岡 直子、事務員 森 百合恵
（兼務 釧路市環境保全課自然保護係/釧路国際ウェットランドセンター事務局）
- ・釧路市こども遊学館 事務局長 小笠原 忍、学習担当リーダー 古野 峻也

<ワーキンググループ事務局>

- ・環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所 境 耕平、石下 亜衣紗
- ・公益財団法人北海道環境財団 山本 泰志、安田 智子

■議事次第：

1. 開会
2. これからの湿原学習支援の方向性について
3. 閉会

■議事概要

1. 開会

《配布資料確認、委員自己紹介》

2. これからの湿原学習支援の方向性について

事務局より資料1について説明。ホームページ、データベース、教員研修講座、情報交換会については、該当ホームページ、実施風景の写真および動画をプロジェクターで映写し説明。

古野委員より釧路湿原サイエンスフェア研究発表会について、発表スライドに基づき紹介。

元岡委員より釧路市と釧路市教育委員会が小学校社会科教育における湿地学習の導入にむけた取り組みについて、発表スライド、配布資料に基づき紹介。

事務局より資料2について説明。

《学校教員からの意見》

- ・学校の勉強は、つながる、つなげる、つなげあう、つながりあうということが、とても大事だと思っているので、とても良い視点でまとめられていると感じた。例えば総合であれば、意図的にポイント毎に人を介在させる場を作ったりするが、この資料を見ると、そこも明確で、とても良いと思う。全ての学校が総合で釧路湿原をテーマにするということは非常に難しいだろうと思っており、様々な湿原学習をやっている学校が次第に増えていくしかないのではないかと思う。故郷教育については、将来的には市町村をまたいでいくことがベストだと思っている。
- ・学校でおこなっている意味として、湿原に行けない子、その余裕がない家庭を最後に救えるのは学校だと思う。行けなかった人たちが大人になった時に、経済を優先する視点になると思う。現場に行き、自分なりに、自分が思う部分で関わることで、知識だけではなく体験として愛着や価値が生まれることが大切なことだと思う。学校の先生でなければ、行けない子を救うことができない。多くの子に、ここに生まれて良かった、ここを良くしていきたいと、経済的な部分だけでなく、住んでいる者としてのやりがいや生きがいといったものを感じさせてあげられればと思う。
- ・先生方は学校も変わり、地域も変わり、情報交換会はとても大切だと感じている。こういう機会を使いつつも、いかにやってきたことを伝えていくか、新しい先生が持ったとしても、やれるという状況を作れるかということが、我々教員の課題なのかなと思う。バスが自由に使えない、日程が思うように組めないという部分が大きな壁。自分は沖縄出身で平和教育があり、違和感なく地元のことを知れた。こちらに来てみると、市町村毎の特徴があり、一貫性をどのようにすれば持てるのか、もっと子どもたちに良い発信ができないかと、皆さんの話を聞いていて考えていた。
- ・学校の中でのことが大きいかなと思う。湿原学習の授業を持っている先生たちが毎年関わっているが、学校の中では他の先生には伝わっていないところがある。フィールドの事前下見などの場面に、もう少し裾野を広げて他の先生も参加していれば、ゼロから次おこなうということではなく、ある程度認識した中で始められるのではないかと感じた。

《学校教員行政機関等からの意見》

- ・教育の立場で言うと、釧路湿原を管内の資源と捉えている。郷土読本のみならず、市町村の横のつながりで把握していく、学習していくということがあれば良いかと思う。
資料2にある市町村内のコーディネーターの具体的なイメージはどういったものか。
(事務局) たたき台とお考えいただきたいが、教育委員会の方を想定している。
- ・自走的に、自分たちで得たい情報は得て、つながりを作っていく、そのつながりが広がっていくというところも視野として必要だと思う。ホームページやデータベースがつながりを作

る一つのものになっていくのではと思う。コーディネーターの手腕によるところも課題になるかと思う。

- ・探究的な学びや地域フィールドを重視した学習指導要領に変わってきているので、各学校では総合的な学習の時間の見直しや、小中高が連携した探求的な学びをどう連携させていくのかが言われている。恐らく各市町村の教育委員会が主体となったカリキュラムの見直しは、総合についてはやっぴかざるを得ないと思う。各学校だけで中学校、高校と連携することは無理なので、市町村教育委員会がどれだけリーダーシップを発揮できるかが一つ。

湿原の保全を意識していくのであれば、中学校、高校での取組みが大切であるが、中学校、高校の総合の発表で湿原について地域再生をテーマにしている発表はほぼないと思う。湿原は身近と言われるが、バスの問題があり、見に行きたい時に行けなければ身近ではない。そこは市町村教育委員会がほかのところと連携して、子どもたちが湿原に行きたいと思った時に行けるようにならなければ、湿原が子どもたちのものにならない。本当の意味で湿原の保全を考えるのであれば、大人が真剣に考えなければいけない。子どもが行きたい時に、湿原に足を運べるシステムを作っていくことが今後大事になる。

コーディネーターについては、教育委員会であれば室長が窓口になりながら進めることができるかなと思う。バスの話については運転手不足の問題がある。こうした問題を踏まえると、日常的に湿原にバスで行くということは非常に難しいので、地域をあげて考えなければいけない問題と考えている。

- ・持続可能な部分と担任が変わっても継続していけるといところが大事なところと思う。子どもたちが身近な自然に触れた時に、湿原とつながっていることのきっかけを作ってあげられるということが一つ大事なのかなと思う。担任の先生が湿原のつながりを感じられるようなきっかけづくり、場づくりというところを目指して、いろいろなことを専門家の方に教えてもらいながら、担任の先生や関係者が湿原のことを語る、子どもたちの興味を引く材料にできるという部分で自分は頑張らなければならないと思う。
- ・湿原というのは壮大な教材であり非常に有効だと思うが、バスや人の課題が出てくる。つないでいくということが教育委員会の役目と思っている。情報交換会などを通したネットワークを活用することによって、学校間や教職員もオンラインであれば教頭先生なり教務主任なりが傍にいながら、自分の学校ではどうしていくか考えていくとても良い機会だと思う。教育委員会では室長が変わった際に次の室長にどのようにバトンタッチしていくかが必要になってくるし、域内の学校についても、総合的な学習の時間を学校間でどうやっていくのか、何をやっていて何が課題なのか、そういったものを洗い出していかなければならないと思う。
- ・釧路湿原は身近なようで、実は身近ではないということをも自分も以前より感じていた。それぞれの学校、それぞれの市町村で課題は違うと思うが、この仕組みが必要であれば、地域の方で担っていくということは必然であろうと思う。その中で教育委員会の果たす役割もあるのだろうと思っている。どういったものを残していきたいのか、そのために何をどうしたら良いのかということをも、これから議論していくのだろうと思う。
- ・今日の話の中で大変心を打たれたのは、湿原に行けない子どもたちがいるのを学校で救っているという話。湿原サイレンスフェアをおこなうことで一般来館者の方、市民の方の心が動く。それが力になって、少しずつだが、釧路の子どもたちにとって何が必要か考える大人が増えていかなければ状況が変わらないと思う。
- ・今まで湿原学習に携わったことがある担任リストがあると、先生同士で教えあうといった広がりもできるのではないかと思った。横のつながりがあれば良いなと思った。
- ・今回の議事は、これからの湿原学習の方向性についてということであるが、本日の議論を経て、小委員会にワーキンググループとして結論を出すということになるのか。環境省と何人かのグループで協議を継続していくということになるのか。

《事務局（環境省）からのコメント》

前向きな議論に感謝。湿原に関わる人々を巻き込みながら進める探究学習は、自然再生の普及と市民参加の促進に大きく寄与している。学校支援WGで話し合われた内容は、今後の小委員会や自然再生協議会の中でまとめて発表予定。予算を確保し続けることは難しい部分があり、地域ができる範囲で、自走的に進める場にしていく必要がある。2回目の会議でも議論いただければと思う。

3. 閉会